

平成 29 年度 FD・SD ウィークの実施結果について（報告）

高知大学大学教育創造センター

1. FD・SD ウィークの趣旨と目標

【趣旨】教育改善に関する教職員の意識改革の一環として、従来の相互授業参観を見直し、各学部等 5 授業程度を選んで公開授業とし、授業参観の機会を増やす。これによって

- (1) 授業公開者の授業改善を行う。
 - (2) 授業参観を通じて参観する側の教員が授業についての内省を通じた教育改善を図る。
 - (3) 職員は授業参観を通じて、大学の授業について理解する第一歩とし、業務への反映を図る。
- ことをめざす。

【目標】

(1) 授業公開教員

参観者から得たフィードバックをもとに、次年度以降の授業改善を行う。

(2) 授業参観教員

参観した授業から得られた気づきや新たな教授法などを参観者が内省し、自らの授業改善・教育改善に活かしていく。

(3) 職員

公開授業を参観することで、本学が行う教育の一端に触れ、日常の業務に反映させていく。

2. 実施期間と開講科目数

期 間：平成 29 年 6 月 12 日（月）～平成 29 年 7 月 31 日（月）

科目数：42 科目（延べ 99 回開講 ※e ラーニング科目は 1 回として集計）

3. 参加者数（参観申込者数，コメント登録者数）

本年度の、FD・SD ウィークの授業参観は、Web ページ上の集計で教職員合わせて 355 人の申し込みがあり、参観後のコメント登録者数は 306 人であった。申込者数は昨年度並み、コメント登録者数は 50 人ほど増えた。

FD・SD の効果を高めるためには「ふりかえり」が重要であるため、Web ページの改善や参観者へのアナウンスを工夫し、できるだけコメント登録者が増えるように今後も改善を続けていきたい。

科目名	参観申込者数			コメント登録者数		
	教員	職員	計	教員	職員	計
グローバル社会と地域	9	9	18	7	8	15
感情心理学	1	11	12	1	11	12
人事管理論	4	6	10	3	5	8
中国語読解研究	2	1	3	2	1	3
教育評価（中等）	4	3	7	4	2	6
個人スポーツ実技 [陸上競技]		4	4		4	4
初等音楽科指導法	2	1	3	2	1	3
情報処理	2	2	4	2	2	4
地理学各論		10	10		9	9
日本文学概説	1	3	4	1	3	4
化学英語ゼミナール	7	1	8	5		5
海洋生命・分子工学実験 III	2	2	4	2	2	4
基礎物理学実験	5	1	6	4	1	5
情報科学概論	10	4	14	10	3	13
地震学 II	7	3	10	6	2	8
微分積分学基礎	6	2	8	5	2	7
野外巡検 I		2	2		1	1
スポーツ科学講義		16	16		13	13
疫学		5	5		5	5
課題探求実践セミナー（医学科）		3	3		3	3
生活援助技術論Ⅲ(演)		7	7		6	6
物理学 I	1	4	5	1	4	5
基礎有機化学	2	1	3	1	1	2
水産物利用学	4	8	12	3	7	10
地球科学概論	2	4	6	2	4	6
農場実習 III	2	11	13	1	10	11
農地環境保全学	3	8	11	3	7	10
海洋基礎生態学	10	24	34	5	20	25
地域社会学概論	3	9	12	3	8	11
非営利組織マネジメント論	4	38	42	2	32	34
Academic Writing in English	1	6	7	1	6	7
大学基礎論	4	2	6	3	2	5
障害者支援入門	2	16	18	2	14	16
チームワークを考える		2	2		2	2
課題探求実践セミナー（自由探求学習 I）	3	5	8	2	5	7
環境を考える		1	1		1	1
教育の方法・技術	4	12	16	4	11	15
初等家庭科指導法		1	1		1	1
合計	107	248	355	87	219	306

4. 授業参観記録（コメント登録）

授業参観後に、参観者が Web 上で授業参観記録を作成した。その質問項目と回答の要旨を以下に示す。

【教員】

（１）参観した授業について、教員の授業方法や学生の学習形態等について、特に印象に残ったことはどんなことですか。（自由記述式）

今回公開された授業は、グループワークやその他の学生参加の要素を取り入れた授業が多く、その点を印象に残ったこととして記載している教員が多かった。この他、スライド資料の工夫、課題や資料の事前配付、授業や話の組み立て、レポート等へのきめ細かい指導等に対するコメントが見られた。

（２）授業を参観して、あなたが実施している授業方法や学生の学習形態等についてあらたに気づいたことはどんなことですか。（自由記述式）

（１）への回答と同様、アクティブラーニングに関する記述が多く、さらに具体的に記載されていた。また、教材の使い方についても、スライドを使う場合、事前配付の他、moodle 等を使い常に見える状況にしたり、授業中に PC やスマホを使い資料を見ながら授業を行ったりと、様々な使い方をしている様子などが挙げられていた。さらに e-Learning でも効果的な授業ができそうであるといったコメントもあり、e-Learning への理解も進んだようであった。

（３）参観した授業での授業方法や学生の学習形態等で、自分の授業にも取り入れてみたい、あなたの授業に取り入れることが可能だと思うことはどんなことですか。（自由記述式）

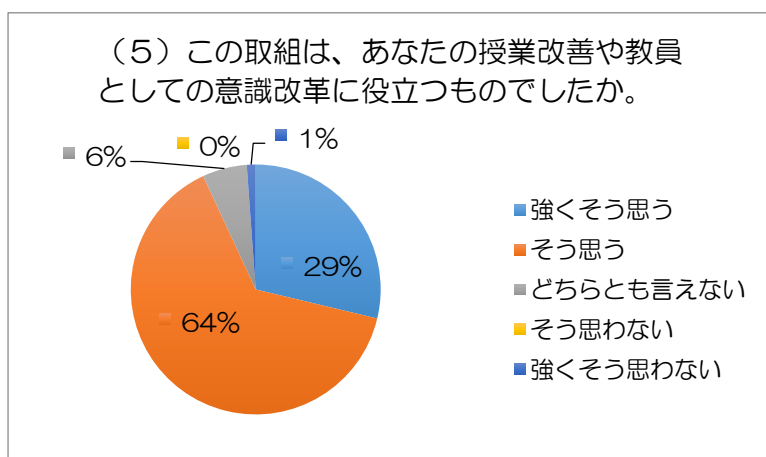
（１）、（２）と同様にアクティブラーニングについて触れられている記述が多かった。可能な範囲で取り入れてみたい、同様の工夫をしてみたいなどのコメントが見られた反面、私の授業では難しいなどのコメントも見られた。また、わかりやすい話し方や詳細な資料作成などというコメントもあり、アクティブラーニングだけでなく講義型授業について気付きがあった教員も多いようである。

（４）参観した授業の授業方法や学習形態について、授業担当者へのコメントがあれば書いてください。（自由記述式）

授業内容に関する記述がいくつか見られた。スライドの作り方、使い方、資料配付の方法などへのアドバイスもあり、授業担当者にとっても有益であると思われる。

（５）この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。（５段階択一式）

93%が肯定的な回答をしており、有意義であったことがうかがえる。



	度数	割合
強く思う	25	29
そう思う	56	64
どちらとも言えない	5	6
そう思わない	0	0
強く思わない	1	1
合計	87	100

(6) 来年度の本取組の実施に向けて、忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせください。(自由記述式)

おおむね好意的なコメントが多かった。次のような指摘があり、今後検討が必要である。

- ・告知時期について、直前の教授会で知った。もう少し早く周知してほしい。
- ・キャンパス移動の時間を考えると、一コマだけ授業参観するのはもったいない。参観できる授業が連続してある方が良い。あるいは遠隔で参観できないか。
- ・公開授業の情報について、受講生数を加えてほしい。大人数授業（または少人数授業）を参観したい。
- ・授業検討会の実施、授業終了後に担当者と参観者での意見交換会などを実施してほしい。
- ・選択肢が少ない。あるいは全ての授業を参観可能にすべき。
- ・最後尾が学生で占められていた（前の方には空席あり）。あらかじめ学生に前に詰めて着席させるとか、参観者席を設けるなどしてほしい。

【職員】

(1) 参観した授業で、講義の教育方法や学習形態等について、特に印象に残ったことはどのようなことですか。(自由記述式)

本設問では参加型授業に関するコメントが多くみられた。教員の授業に触れる機会が少ないことから、授業の進め方や手順に目新しさがあったと思われる。なお、Web システムの利用、e-Learning 科目の学修内容確認の方法、プレゼン資料の作り方等についてもコメントがあった。

また、いくつかの授業では、シラバスのスケジュールとは異なる内容の授業が行われていたとのコメントがあった。事前に受講生に説明済みであったかもしれないが、シラバスの確認や、説明の重要性が再確認された。

(2) 参観した授業で、学生の様子について気がついたことはどのようなことですか。(自由記述式)

コメントを見ると、アクティブラーニングを導入している授業の割合が高いものの、教員の質問や指示に対して、受講生が活発に参加する授業ばかりではないようであった。今後、アクティブラーニングの参考になるような参観授業を増やすことで、失敗しないアクティブラーニングの導入に繋がるとと思われる。

その他学生の行動について具体的なコメントが多く、遅刻、自由な入退室、私語、PC で関係ない動画を見ている、スマホの使用（授業に関係あるかないかは不明）、居眠り、内職などの問題行動について記載されていた。TA のいる授業でもこれらの行動が行われている場合があるようで、今後の課題である。

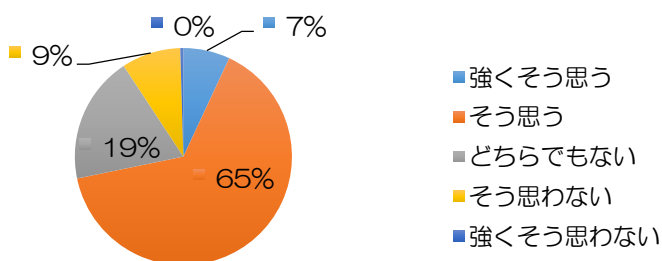
(3) 参観した授業について、授業担当者へのコメントがあれば書いてください。(自由記述式)

ポジティブなコメントとして、構成にメリハリがある、声が明瞭である、科学的内容を生活に引きつけた教員のコメントが分かりやすい、資料などの工夫が多くあった。また、アクティブラーニングについても自分が学生の頃にはなくて新鮮、学生が成長する可能性を感じるなどの記載があった。この他授業内容が面白く、もっと聞きたかったなどのコメントもあった。

(4) 参観が行われた教室の環境の整備や設備について、学習に適していると思いませんか。(5 段階択一式)

20 名ほどが設備等の問題点を感じている。設問 (7) への回答をみると、教室が狭いこと、プロジェクトの位置が低く、前の席に着席している人がいると見えにくいことなどが具体的に挙げられていた。また、開催時期が夏場だったため蒸し暑い教室や、室内にゴミが散乱していて汚い教室もあったようだ。

(4) 参観が行われた教室の環境の整備や設備について、学習に適していると思いませんか。

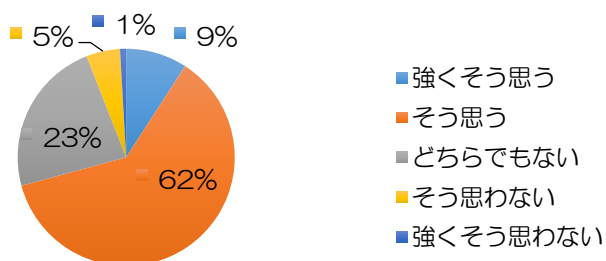


	度数	割合
強くそう思う	15	7
そう思う	140	65
どちらとも言えない	41	19
そう思わない	19	9
強くそう思わない	1	0
	216	100

(5) 授業を参観して、高知大学の教育（授業）を自らの業務に関連づけて考えましたか。(5段階択一式)

肯定的回答は71%であった。

(5) 授業を参観して、高知大学の教育（授業）を自らの業務に関連づけて考えましたか。

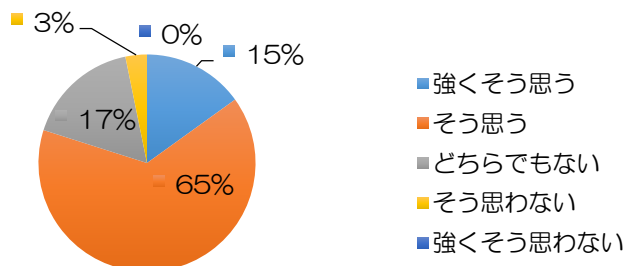


	度数	割合
強くそう思う	20	9
そう思う	135	62
どちらとも言えない	51	23
そう思わない	11	5
強くそう思わない	2	1
	219	100

(6) この取組はあなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。(5段階択一式)

肯定的回答は80%であった。

(6) この取組は、あなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。



	度数	割合
強くそう思う	33	15
そう思う	142	65
どちらとも言えない	37	17
そう思わない	7	3
強くそう思わない	0	0
	219	100

(7)(4)～(6)の回答の理由や、来年度の本取組の実施に向けての忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせください。(自由記述式)

授業内容が業務と関連してヒントとなった、業務に対するモチベーションが上がったという意見とともに、業務内容と関連付けて参観するのは難しいという意見があった。業務に関連づけて参観するとはどういうことかなど、本FD・SDウィークについての理解や認識を共有できるような取組も併せて必要かもしれない。また、具体的に教室の状況や施設設備に関する改善点を指摘するコメントも多数あり、本結果の活用方法も検討課題である。

改善点として、以下の様なコメントがあった。

- ・参観者にもプリントを配布して欲しい。
- ・期間を長くして欲しい、定員があり参観したい授業を参観できなかった。
- ・公開授業を収録し、e-Learningで参観できないか。
- ・申込、コメント登録操作の簡便化。
- ・公開授業が何週目の授業か申し込みの際に分かるようにして欲しい。
- ・参観後のアンケートについて、設問が教員に向けたものか、職員に向けたものか分かり難い。

5. 成果について

参観後のアンケート調査の結果から、本企画の趣旨や目標に対する成果として、次のようにまとめられる。

【授業公開教員】

アクティブラーニングを取り入れている授業の比率が多かったようで、これまでの授業改善の取組が成果を上げている様子がうかがえる。また、参観した教職員から様々なコメントがあり、特に職員のコメントは具体的に学生目線に近いと感じられるものが多く、授業公開教員が授業改善の検討を行う上で参考になる資料が得られたと思われる。

実際に授業改善に結びつけるのは授業公開教員に委ねられているため、事後アンケートの実施も必要かもしれない。

【授業参観教員】

今回の参観授業では、意識改革に役立つものだったかという問いに、93%が肯定的な回答をしており、アクティブラーニングを取り入れていると思われる授業が多かったことも、その要因一つであると考えられる。また、e-Learning科目についてもこの企画で初めて観た、知ったという教員も多かったようで、効果的なe-Learningの利用についてもコメントが書かれていた。今後もこれらの新しい手法が授業公開教員と授業参観教員の間で共有されていくことが期待される。

【職員】

授業参観を業務に関連づけて考えていた者が多数いた。例えば、設備、教室の状況等を直接業務に関連づけて見た者や、学生対応窓口で業務をしている者にとっては教室での学生の様子などは直接業務に関連する内容として感じ取ったようである。また、業務内容と授業内容が関連していて、もっと授業を聞きたかったというようなコメントもあった。アクティブラーニングの授業を参観した職員の中には、SDの研修方法として授業の進め方に関心を持った者もいた。

他方で、少数ではあるが、業務に関係を感じないとコメントした者もいた。大学は学生を育てる機関であり、全ての業務はそこに直接的、または間接的に必ず結びついている。そのことを理解してもらうための工夫が今後必要かもしれない。